

知的障害児童生徒のための「教育的ニーズ」に関する調査研究(Ⅱ)

嶋野重行*・菅原正和**

(2001年1月9日受理)

Shigeyuki SHIMANO and Masakazu SUGAWARA

A Study of Educational Needs in the School for Mentally Retarded Children (Ⅱ)

Ⅰ はじめに

「教育的ニーズ (educational needs)」という概念は、欧米障害児教育の「特殊教育(special education)」と対をなす大きな潮流、即ち「健常児童生徒と障害児童生徒、普通教育と特殊教育の教育的統合化= インテグレイション (integration)・インクルージョン (inclusion)」と不可分な極めて重要なキー概念である。理想をかかげて一口に障害児教育のインテグレイションと言っても様々の水準が存在する。S. Hegarty (1993) によれば、普通教育と特殊教育のインテグレイションは次の6種類に分類されるという。

- ①物理的インテグレイション—この段階では、健常児童生徒と障害児童生徒が学校や施設設備を共有してはいるが、日本などでは教育的心理的なインテグレイションにはなっていないことが多い。
- ②用語的インテグレイション—言葉の上での障害児者に対するレッテル付けや差別が排される段階。
- ③行政的法的インテグレイション—障害児者が健常者と日常的接触を可能にするための道路/交通機関/階段/トイレ等を含む諸設備の整備と行政的法的インテグレイション。
- ④教育カリキュラムのインテグレイション—障害児童生徒の学習進度と理解度に対応したサブプログラムを併用した、教育カリキュラム統合、ICM (Integrated Classroom Model) (Madge et al., 1990)はこれにあたる。
- ⑤社会的インテグレイション(Chadsey-Rusch and Heal, 1995)—健常児童生徒と障害児童生徒とが度々交流可能な段階をさし、高頻度での交流により⑥への移行が可能となる。

* 岩手大学教育学部附属養護学校

** 岩手大学教育学部

注) 本調査研究は平成7年から平成10年にかけて実施され、後述する多数の岩手大学教育学部附属養護学校の旧(現)職員と在学した子ども達の保護者の協力のもとに行われた。

そのためには、障害児童生徒の保護者のみならず、健常児童生徒の保護者からの理解が大切となる (Green and Shinn, 1994)。平成8年度から始まった岩手大学教育学部附属中学校と附属養護学校との生徒同志と保護者の交流はこの段階の試行といえる。

Kennedy らの研究は (Kennedy et al., 1997) 健常児童生徒と障害児童生徒との交流は障害児童生徒にとってのみならず健常児童生徒にとって如何に重要な意味を持っているかを示している。

- ⑥心理的インテグレイション —心理的にも健常児童生徒と障害児童生徒との日常的な自然な交流の可能な段階。部分的ではあるが、例えば岩手大学教育学部附属養護学校では頻繁に見られる、普通学級から転校してきたA子さんが障害の重いN君を健康な大人以上に見事にサポートする姿や「つばさ号」を運転するIさんがごく自然に子ども達のcareをし、子ども達もまたIさんを慕う光景はこれに相当する。そして社会化されていない本学の教育実習生が、机に腰掛け煙草を吸って障害児から逆に注意を受けるという姿もまた別の意味でこれに含まれるであろう。更に、もしこのような交流が般化 (generalization) できた場合にこれを心理的インテグレイションという。このような高度に進んだ教育的統合段階をインクルージョン inclusion (Borg and Bartolo, 2000) という。

先進欧米諸国が「特殊教育」からインテグレイション、インクルージョンへと移行していく姿を、ただ後塵を拝しているのではなく、障害児教育後進国日本が追いつき追い越そうとするとき大きな壁に突き当たる。その理由はキリスト教文化の持つ障害児者に対する伝統的基盤もさることながら、基本的教育制度の相違にある。因みに例えば日本よりGNPがずっと低いイタリアでさえ、健常児童生徒と障害児童生徒の統合クラスは一クラス20人以下であって、障害児童生徒数は2人以下と定められており、サポート教員と専門家や保護者からなるワーキングチームが担任を支援する体制をとっている。米国では良く知られている EHA (Education for All Handicapped Children Act) や IDEA (Individuals with Disabilities Education Act) の下に特別な「教育的ニーズ」を必要とする子ども達のための専門的支援組織 CEC (Council for Exceptional Children) と教育現場でのこれも良く知られている TAT (Teacher Assistance Team) が、クラスのインテグレイションを可能にしている (筆者の一人の子弟が1989年に Los Angeles郊外の Nora Steary Elementary Schoolの4年生に日本から転校したとき、1セントも税金を払っていないたった一人の日本の子どもの為に、“英語が話せないhandicapがある”と言う理由だけで教師をもう一人つけてくれるという経験を持ち大変驚かされた)。米国の健常児童生徒と重度の障害児童生徒のクラス統合の試み (Kennedy et al., 1997) は、我々日本の教育に携わっている者の感覚からすると大胆過ぎるのように感じられる。しかし、今その子どもがどんな学習課題を抱え「教育的ニーズ」が何かを、支援する者が的確に把握することが、インテグレイション・インクルージョンはもとよりあらゆる障害児教育にとって如何に大切かをこれまでの研究は明確に示している。

知的障害児童生徒のための「教育的ニーズ」に関する調査研究 (I) (II) は、子ども達とその保護者のための貴重なデータベースである。多くの保護者のご協力を得、次期の新たな研究に役立つよう、苦勞して集積・クラスター分析された教育的ニーズに関する貴重

な調査dataとraw dataが、未刊行のまま離散してしまうことのないよう、一度整理しておくことが必要であると考えた。

Ⅱ 調査方法

本研究「知的児童生徒のための教育的ニーズに関する調査研究」の調査Ⅰでは、知的障害養護学校に在籍する児童生徒の発達にとって重要な教育的ニーズと考えられる教育内容を明らかにするため、現在、将来、維持・発展の3視点から自由記述による調査を保護者と担任教師を対象に実施した。調査Ⅱでは、これまでの重度から軽度といった知的な障害の程度によって教育内容が決定されるという発想を転換し、個々の教育的ニーズに応じた教育内容が決定可能となるよう、調査Ⅰで得られた data 項目から5件法による評定値を算出した。そして相関分析、クラスター分析をして項目を整理し、基準化した教育的ニーズのチェックリストを作成した。

調査 Ⅱ

(1) 目的

担任教師が実際に受け持っている児童生徒個々の教育的ニーズの課題性に対する重要度を評定することによって、各学部の教育的ニーズの傾向を明らかにする。さらに、各項目間の類似性と段階性について検討し、教育的ニーズのチェック項目を選定する。

(2) 材料

調査Ⅰによって得られた100項目。

(3) 調査対象及び期日

本校に在籍している小学部、中学部、高等部の児童生徒60名の担任教師26名に対して実施した。調査期日は1996年3月中旬である。

(4) 手続き

調査Ⅰによって得られた100項目について、「たいへん重要な課題である」「重要な課題である」「普通の課題である」「あまり課題でない」「ぜんぜん課題でない」の5件法で評定し、それぞれ5点～1点を与えた。

(5) 結果と分析

各学部の平均値と標準偏差を算出することにより、学部段階での教育的ニーズの傾向を明らかにした（表1）。なお、基本的な統計処理に当たっては、マイクロソフト社のExcel97、クラスター分析については、HALBOU統計処理ソフトを使用した。

表1 各学部と全体の平均値と標準偏差

		(SD) N=60			
ニース領域	No. 見出し	小学部 (n=19)	中学部 (n=14)	高等部 (n=27)	全体
家庭生活	001 掃除	2.88(1.22)	3.57(0.85)	3.69(0.71)	3.43(0.96)
	002 布団	2.71(0.99)	3.14(0.86)	3.03(1.02)	2.97(0.97)
	003 洗濯	2.77(0.90)	2.86(1.23)	3.05(1.12)	2.92(1.08)
	004 調理	3.35(0.79)	3.43(0.76)	3.59(0.78)	3.48(0.77)
	005 裁縫	1.71(0.77)	2.21(0.98)	2.66(1.34)	2.28(1.18)
	006 部屋装飾	1.59(0.71)	2.71(0.99)	2.28(0.96)	2.18(0.98)
	身辺処理	007 食事	2.71(1.45)	2.86(1.29)	2.07(1.42)
008 偏食		2.71(1.53)	2.64(1.45)	1.97(1.43)	2.33(1.48)
009 歯磨き		3.53(1.28)	2.86(0.95)	2.17(1.54)	2.72(1.45)
010 洗顔入浴		2.88(0.78)	3.14(1.17)	3.13(1.37)	3.05(1.17)
011 排泄		3.41(1.27)	3.21(1.48)	2.17(1.49)	2.77(1.52)
012 履き物		2.82(1.38)	2.14(1.17)	1.45(0.99)	2.00(1.28)
013 着替え		3.24(1.44)	2.36(1.22)	1.79(1.23)	2.33(1.41)
014 身だしなみ		2.88(1.17)	3.14(1.10)	3.14(1.36)	3.07(1.23)
015 整理整頓		2.65(0.86)	2.71(1.27)	2.90(1.50)	2.78(1.28)
016 衣服調整		2.41(1.00)	2.50(0.76)	2.45(1.02)	2.45(0.95)
017 化粧		1.53(0.62)	2.57(1.28)	1.86(0.99)	1.93(1.04)
社会生活	018 安全歩行	2.12(1.05)	3.57(0.76)	2.35(1.42)	2.85(1.29)
	019 交通機関	2.00(0.87)	3.14(1.17)	3.21(1.09)	2.85(1.16)
	020 食堂	2.77(0.56)	3.36(0.63)	3.45(1.02)	3.23(0.87)
	021 買い物	2.35(0.79)	3.64(0.53)	3.48(1.35)	3.20(1.23)
	022 公共施設	1.65(1.06)	2.36(1.08)	3.14(0.99)	2.53(1.20)
	023 電話	1.88(1.11)	2.71(1.27)	2.41(1.12)	2.33(1.17)
	人間関係	024 呼名応答	3.65(1.12)	2.79(0.58)	2.00(1.23)
025 返事挨拶		3.47(1.07)	2.64(0.50)	3.10(1.42)	3.10(1.19)
026 関わり		3.06(0.97)	3.07(0.92)	2.76(0.95)	2.92(0.94)
027 異性交友		1.94(1.09)	2.93(1.39)	2.72(1.25)	2.55(1.28)
028 礼儀マナー		3.06(1.14)	3.14(0.86)	3.52(1.15)	3.30(1.09)
029 集団ルール		3.24(1.15)	3.14(0.95)	3.41(0.91)	3.30(0.98)
国語		030 物と言葉	3.65(1.06)	3.00(0.88)	2.45(1.55)
	031 なぞり模写	2.94(0.97)	2.36(0.93)	2.03(1.35)	2.37(1.21)
	032 名前	3.41(1.00)	1.93(1.00)	1.93(1.33)	2.35(1.34)
	033 平仮名	2.53(1.33)	2.93(1.27)	2.10(1.29)	2.42(1.32)
	034 漢字・文章	1.41(0.71)	2.50(1.40)	3.03(1.32)	2.45(1.37)
	035 ローマ字	1.12(0.33)	2.00(0.96)	2.28(1.13)	1.88(1.04)
	036 作文・日記	1.12(0.33)	2.07(1.33)	2.69(1.31)	2.10(1.30)
	037 新聞	1.18(0.53)	1.71(1.07)	2.45(1.43)	1.92(1.27)
	038 辞書利用	1.18(0.53)	2.14(1.17)	2.59(1.48)	2.08(1.33)
	言語	039 発音	3.24(1.39)	2.79(1.12)	2.07(1.56)
040 身振り		2.88(1.45)	2.64(1.15)	2.55(1.90)	2.67(1.61)
041 話の理解		2.88(0.86)	3.36(0.75)	3.59(0.91)	3.33(0.90)
042 質問・応答		3.00(1.00)	3.14(0.17)	4.07(0.70)	3.55(1.03)
043 報告・発表		2.12(0.78)	3.23(1.25)	3.45(1.62)	3.02(1.16)

数量	044 数唱・数字	2.65(1.32)	2.93(1.14)	1.69(1.12)	2.25(1.28)
	045 大小・弁別	3.06(0.83)	2.64(1.01)	2.14(1.36)	2.52(1.20)
	046 保存・対応	3.24(0.97)	2.79(0.89)	2.24(1.53)	2.65(1.31)
	047 量・順序	2.47(1.46)	2.71(1.14)	2.07(1.07)	2.33(1.22)
	048 加減算	1.24(0.44)	2.36(1.39)	2.55(1.45)	2.13(1.35)
	049 乗除算	1.12(0.49)	1.86(1.17)	2.52(1.48)	1.97(1.33)
	050 定規	1.06(0.24)	2.27(1.20)	2.38(1.52)	1.98(1.33)
	051 時計・時刻	1.82(0.81)	2.71(1.27)	2.45(1.12)	2.33(1.12)
認知	052 模倣	3.29(1.16)	2.71(0.91)	2.57(1.57)	2.82(1.35)
	053 図形	3.41(1.18)	2.64(1.08)	2.31(1.63)	2.70(1.45)
	054 区別	2.88(0.99)	2.07(1.14)	2.00(1.31)	2.27(1.23)
	055 見通し	2.88(0.93)	3.36(0.75)	3.14(1.13)	3.12(0.99)
作業	056 集中	4.00(1.00)	3.57(0.94)	3.66(1.05)	3.73(1.31)
	057 工程理解	3.00(0.87)	3.36(0.63)	3.66(0.72)	3.40(0.79)
	058 丁寧・正確	2.88(0.99)	3.50(0.76)	4.00(0.85)	3.57(0.98)
	059 手指操作	3.82(0.88)	3.43(0.85)	3.41(1.24)	3.53(1.07)
	060 道具使用	3.18(0.64)	3.57(0.76)	3.14(1.03)	3.25(0.88)
	061 機械操作	2.12(0.93)	2.50(1.09)	2.90(1.40)	2.58(1.24)
創作	062 歌	3.00(0.50)	3.71(0.73)	3.07(0.55)	3.20(0.68)
	063 楽器	3.12(0.78)	3.36(0.63)	2.90(0.72)	3.07(0.73)
	064 工作	2.83(1.02)	2.64(1.22)	2.76(0.64)	2.75(0.90)
	065 絵画	2.59(0.07)	3.07(1.00)	3.17(0.71)	2.98(0.77)
運動	066 粘土	2.71(0.69)	3.29(0.47)	2.76(0.79)	2.87(0.72)
	067 調整・柔軟	3.41(0.94)	3.79(0.43)	3.59(0.68)	3.58(0.72)
	068 敏捷性	3.35(0.70)	3.34(0.50)	3.41(0.73)	3.45(0.67)
	069 持久力	3.41(1.06)	3.50(0.52)	3.72(0.88)	3.58(0.87)
	070 筋力	2.82(0.73)	3.21(0.58)	3.69(0.66)	3.33(0.75)
	071 ボール運動	2.94(0.56)	3.57(0.76)	3.31(0.76)	3.27(0.73)
072 水泳・ｽｰ	3.24(0.90)	3.35(0.33)	3.38(0.73)	3.33(0.75)	
健康	073 うがい手洗	3.12(0.93)	3.29(0.61)	2.86(1.25)	3.09(1.04)
	074 生理手当	1.18(0.73)	1.50(1.16)	1.31(0.85)	1.32(0.89)
	075 運動習慣	3.06(0.90)	3.64(0.63)	3.76(0.74)	3.53(0.81)
	076 清潔・衛生	2.24(0.44)	3.27(1.07)	3.52(0.95)	3.10(1.04)
	077 成長・性	1.24(0.56)	2.57(0.85)	2.93(1.10)	2.37(1.16)
余暇	078 テレビ絵本	2.59(0.51)	3.29(0.83)	2.59(1.09)	2.75(0.93)
	079 漫画・読書	2.41(0.80)	2.57(0.94)	2.31(1.00)	2.40(0.92)
	080 一人遊び	2.35(0.86)	2.64(1.15)	2.10(0.94)	2.30(0.98)
	081 身近な遊び	3.29(1.11)	3.43(0.76)	2.31(1.07)	2.85(1.13)
	082 ごっこ遊び	3.16(0.81)	2.93(0.62)	3.24(0.74)	3.15(0.73)
	083 カラオケ・音楽	2.65(0.49)	3.79(0.60)	3.17(0.66)	3.17(0.76)
	084 ネットの世話	1.82(0.73)	3.00(0.56)	2.21(0.77)	2.28(0.83)
	085 編物・刺子	1.71(0.69)	3.00(1.41)	2.69(1.20)	2.45(1.23)
	086 喫茶店	2.12(0.86)	3.00(0.78)	2.97(0.82)	2.73(0.90)
087 娯楽施設	3.00(0.35)	3.43(0.85)	3.41(0.73)	3.30(0.70)	
行動	088 固執	3.71(0.47)	3.43(0.76)	2.90(1.60)	3.25(1.23)
	089 判断の柔軟	2.88(1.05)	3.00(0.88)	2.59(1.35)	2.77(1.17)
	090 精神安定	3.24(0.97)	3.07(1.14)	2.93(1.36)	3.05(1.20)
	091 肢体機能	2.59(1.12)	3.79(0.99)	2.38(1.32)	2.77(1.31)
	092 我慢	3.24(0.97)	3.43(1.18)	3.14(1.38)	3.23(1.21)

心	093 自信	3.29(0.59)	3.36(0.34)	3.36(0.99)	3.56(0.89)
	094 達成感	3.36(0.60)	3.57(0.35)	3.44(0.92)	3.73(0.89)
	095 忍耐力	3.24(0.75)	3.50(1.02)	3.79(0.98)	3.67(0.95)
	096 主体性	2.65(0.70)	3.57(1.02)	3.53(0.75)	3.43(0.95)
	097 責任感	3.24(1.03)	3.21(0.89)	3.33(0.81)	3.52(0.93)
	098 羞恥心	2.53(0.94)	3.21(1.19)	3.35(0.66)	3.09(1.01)
	099 優しさ	2.71(0.99)	3.07(0.73)	3.00(1.46)	2.93(0.71)
	100 善悪判断	2.59(1.12)	3.50(1.02)	3.38(0.68)	3.13(0.97)

(■は3.00以上)

評定値で、3.00を基準とし、それ以上を高い評価と考えた。各学部の教育的ニーズは次のような傾向が伺われた。

家庭生活では、中学部と高等部で平均値の高い項目が多かった。特に「掃除」と「調理」が高かった。これは、一人の部屋を与えられる時期でもあり、家庭でも自分の部屋の掃除が期待されるようになってくるためであると思われる。調理は簡単なおやつを作って食べていられる状態が求められてくるためと思われる。近い将来の自立的な生活をしていく上で求められてくる実用的な内容である。

身辺処理では、小学部で平均値の高い項目が多かった。特に「食事」「歯磨き」「排泄」「着替え」は日常の基本的な生活にかかわる緊急な内容で、小学部段階での確立が強く求められている。中学部と高等部では「洗顔入浴」「身だしなみ」が高かった。

社会生活では、中学部、高等部がほとんどの項目で高かった。社会的な活動が強く求められてくる時期であるためと思われる。特に「買い物」「食堂」など、社会で生活する実用的な能力に対するニーズが高かった。中学部では「安全歩行」が高かった。これは、校内での学習から校外での学習へと移行する段階で、活動範囲も拡大し、社会で活動していく基本としてしっかりと安全に歩行できることが求められるためである。

人間関係では、小学部ではほとんどにおいて高値を示している。高等部では「礼儀マナー」が高かった。これは、職場実習や卒業後の社会生活を念頭に置いていると思われる。

国語では、小学部で「物と言葉」が高く、これは日常のいろいろな物と言葉がきちんと一致することが、それ以後の学習を支えていく基礎的な能力であるためと思われる。

言語では、高等部が「質問・応答」が高かった。職場等の適応において、他者からの質問に対してきちんと答えられる能力が強く求められるためである。

数量は、どの学部でもそれほど高くはなかったが、小学部では「保存・対応」が高かった。これは、あらゆる活動場面で、それ以後の数にかかわる学習を支えていく基礎的な数能力であるためと思われる。

認知では、中学部と高等部で「見通し」が高い。これは、自立的な生活とかかわって、物事に見通しを持って活動していくことが求められてくるためである。

見通しには、メタ認知や効力感が関係しており、主体的に活動する基本的な能力である。

作業では、ほぼ全学部で各項目に対するニーズが高かった。特に小学部では「集中」

「手指操作」、中学部では「集中」「道具使用」、高等部では「工程理解」「丁寧・正確」が高い。小学部段階より、働くための基本的な能力が重視されていることが窺われる。

創作では、「歌」が全学部で高い。

運動では、全学部がほぼ全項目において高く、特に中学部になると「調整・柔軟」「敏捷性」、高等部になると「持久力」「筋力」が高くなった。

健康では、全学部で高かったのは「運動習慣」であった。

余暇では、中学部で「身近な遊び」「カラオケ・音楽」が、高等部では「娯楽施設」が高かった。高等部では卒業後の社会参加をしていく上で、娯楽施設の利用などが求められてくるためと考えられる。

行動では、小学部では「固執」、中学部では「肢体機能」が高かった。

心では、全学部が全項目に対するニーズが高い傾向であったが、特に小学部では「達成感」、中学部では「達成感」「主体性」、高等部では「自信」「達成感」「忍耐力」「主体性」「責任感」が高い。

また、全学部を通じ共通して高かった項目（3.40以上）には、「掃除」「調理」「質問・応答」「集中」「工程理解」「丁寧・正確」「手指操作」「調整・柔軟」「敏捷性」「持久力」「運動習慣」「自信」「達成感」「忍耐力」「主体性」「責任感」などがあつた。

低い項目（2.00未満）としては、「化粧」「ローマ字」「新聞」「乗除算」「定規」「生理手当」があつた。しかしこれは、全体的には低値であってもある特定の児童生徒にとっては強く求められる重要なニーズになっている可能性があるので注意を要する。さらに、個別の教育的ニーズを的確に捉えて、配慮していかなければならないだろう。

ニーズ領域内の関連性をみるために、相関分析とクラスター分析を行った。

相関係数が0.5以上を高い相関と捉え、類似性について明らかにした。そして、ニーズ領域内のクラスター分析により、教育的ニーズ項目の段階性について確認した。

① 家庭生活

掃除、布団、洗濯の相関が高かったが、それらと裁縫、部屋の装飾は低かった。裁縫と部屋の装飾の相関は高かった（表2、図1）。

② 身辺処理

食事、排泄、着替えに関するほとんどの項目の相関が高かったが、髪の毛のまとめ方、化粧については他の全ての項目と相関が無かった（表3、図2）。

③ 社会生活

道路歩行と他の項目とは相関がなかったが、公共施設との利用とは負の相関がみられた。交通機関の利用、食堂利用、お金の使い方、公共施設の利用などとの相関が高かった（表4、図3）。

④ 人間関係

呼名に対する反応と異性とのかわり方は負の高い相関がみられた。言葉づかいと集団ルールには高い相関がみられた（表5、図4）。

⑤ 国語

言葉と物の一致となぞり、名前の読み書きの相関は高く、一方、漢字、ローマ

字、作文・日記、辞書、新聞が高い相関を示し、その群が相互に高い負の相関を示していた。日常使われる漢字と平仮名は他の項目と相関は低かった(表6, 図5)。

⑥ 言語

落ち着いて話を聞くこと、人の話に注意を向けること、報告することには、それぞれ高い相関がみられた(表7, 図6)。

⑦ 数量

物の大小、一対一対応など数概念の基礎的なものとたし算、かけ算などの計算や長さとは負の高い相関があった(表8, 図7)。

⑧ 認知

模倣と形色弁別、持ち物区別など形態の認知は高い相関がみられたが、これらとメタ認知といえる見通しとの相関は低かった(表9, 図8)。

⑨ 作業

集中と手指操作、工程理解と丁寧・正確、手指操作と道具使用、丁寧・正確と機械操作と高い相関があった(表10, 図9)。

⑩ 創作

楽器と工作、粘土と工作が高い相関がみられた(表11, 図10)。

⑪ 運動

調整力と敏捷性、敏捷性と持久力、持久力と筋力が高い相関がある。水泳は全ての項目と相関がなかった(表12, 図11)。

⑫ 健康

健康管理と性理解が極めて高い相関がみられた(表13, 図12)。

⑬ 余暇

テレビと校外遊び、漫画と一人遊び、喫茶店と娯楽施設に極めて高い相関がみられた(表14, 図13)。

⑭ 行動

肢体機能と他の項目とは相関がなかった。固執と我慢は極めて高い相関がみられた(表15, 図14)。

⑮ 心

自信と達成感、忍耐力と善悪判断、思いやりと善悪判断に極めて高い相関がみられた(表16, 図15)。

さらに、教育的ニーズの段階性を明らかにするために複数の領域を合わせて分析した。特に、今後は「領域・教科を合わせた指導」の教育内容を考えていくためには実用的な社会活動と国語、言語、数量、認知を関連させて考えていくことによって、指導の段階がより明らかになると考えられる。それ故に、「社会生活」「国語」「言語」「数量」「認知」の5領域についてクラスター分析をおこない、ニーズ項目の質的な類似性と階層性を明らかにした(図16)。

その結果、大きくは ①ニーズ A, ②ニーズ B, ③ニーズ C の3グループに分かれることが確認できた。

①ニーズ A, 「005 裁縫」～「017 化粧」の10項目は軽度の児童生徒の教育的ニーズ

に対応しているものと考えられる。

②ニーズ B, 「002 布団」～「029 集団のルール」の6項目は中度の児童生徒の教育的ニーズに対応しているものと考えられる。

③ニーズ C, 「045 弁別」～「018 安全歩行」の10項目は重度の児童生徒の教育的ニーズに対応しているものと考えられた。

以上のように、これまでの障害の程度に対応した、教育的ニーズの傾向も明らかにできた。これにより、知的障害養護学校の「領域・教科を合わせた指導」の教育内容を考えていくに当たって、社会的活動に関係する言語、国語、数量、認知などの基礎・基本となる能力をとらえながら指導していくことが可能になってくる。今後、さらに詳細な分析によって、児童生徒の教育的ニーズに各教科面から多面的及び階層的に学習活動を、選択・配列していくことができるものと考えられる。

Ⅲ 教育的ニーズチェックリストの作成

関連の高い項目どうしの内容を確認するとともに、極めて同じような内容を説明しているものは周辺領域と考え、統合して項目を精選し、100項目を95項目にまとめた。ニーズ領域についても15領域から10領域にまとめて「教育的ニーズチェックリスト」を作成した（Appendex を参照）。ニーズ領域とニーズ項目数は表17の通りである。そして、ニーズ項目に「見出し」を付けることによって、教育的ニーズの内容を概括的に提示できるようにした。これらによって、教育課程の編成や授業レベルでの指導内容の選択・配列に幅を持たせ、教師間で児童生徒の教育的ニーズにこたえる教育内容を共通理解していくことが可能であるとする。そして、子どもたちは日々発達し成長していくので、これらのチェックリストは、年度当初に保護者の意見を参考にしながら、担任が「重要なニーズである」「ニーズである」「ニーズがない」の3件法で再吟味するようにしている。

Ⅳ まとめと今後の課題

本研究の目的は知的障害児童生徒を対象とした養護学校における教育的ニーズのチェックリストを作成することであった。子どもに対する親と教師の願いの調査を実施し、分析した結果、小学部、中学部、高等部の年齢段階における児童生徒の教育的ニーズの傾向が明らかになった。その結果をもとにして、10のニーズ領域と95のニーズ項目から構成されている「教育的ニーズチェックリスト」を作成した。これにより、学校に期待する保護者の子どもに対する教育的な願いを全教師が共通の視点で把握することができるようになった。そしてそれらに基づいて学校教育で編成していく教育課程を考えるうえでの客観的な指標を持てるようになった。

次の課題は、個別の特別な教育的ニーズに対して、学校の教育課程編成の中で、具体的にどの教科や領域において、どのような教育内容で如何に伝えていくかを明確にしておくことである。指導と評価を積み上げて、児童生徒の教育的ニーズにこたえる教育をしていくことが特に大切である。

表2 家庭生活の相関

	Q1掃除	Q2布団	Q3洗濯	Q4調理	Q5裁縫	Q6装飾
Q1掃除	1					
Q2布団	0.648**	1				
Q3洗濯	0.623**	0.74**	1			
Q4調理	0.444**	0.248	0.335**	1		
Q5裁縫	0.159	0.008	0.259*	0.481**	1	
Q6装飾	0.237	0.13	0.367**	0.396**	0.787**	1

*p<.05 **p<.01

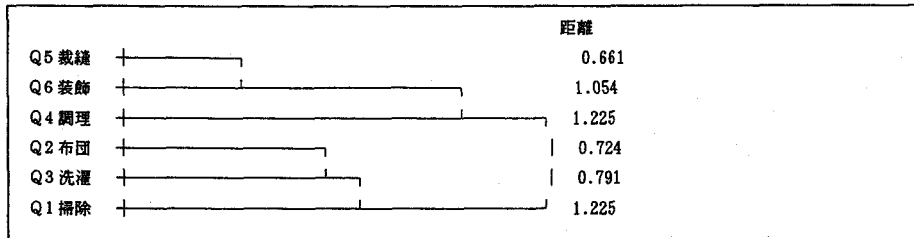


図1 家庭生活のデンドログラム

表3 身辺処理

	Q7食事	Q8偏食	Q9歯磨	Q10洗顔	Q11排泄	Q12履物	Q13着替	Q14身だしなみ	Q15持物整理	Q16衣服調整	Q17化粧
Q7食事	1										
Q8偏食	0.473**	1									
Q9歯磨	0.699**	0.384**	1								
Q10洗顔	0.468**	0.244	0.567**	1							
Q11排泄	0.831**	0.404**	0.775**	0.625**	1						
Q12履物	0.707**	0.583**	0.55**	0.272	0.567**	1					
Q13着替	0.824**	0.409**	0.71**	0.441**	0.771**	0.716**	1				
Q14身だしなみ	0.447**	0.266*	0.551**	0.714**	0.514**	0.237	0.416**	1			
Q15持物整理	0.304*	0.191	0.479**	0.518**	0.383**	0.26*	0.333**	0.634**	1		
Q16衣服調整	0.135	0.133	0.243	0.285	0.239	0.028	0.114	0.497**	0.391**	1	
Q17化粧	-0.26	-0.07	-0.16	-0.16	-0.17	-0.09	-0.22	0.083	0.091	0.1	1

*p<.05 **p<.01

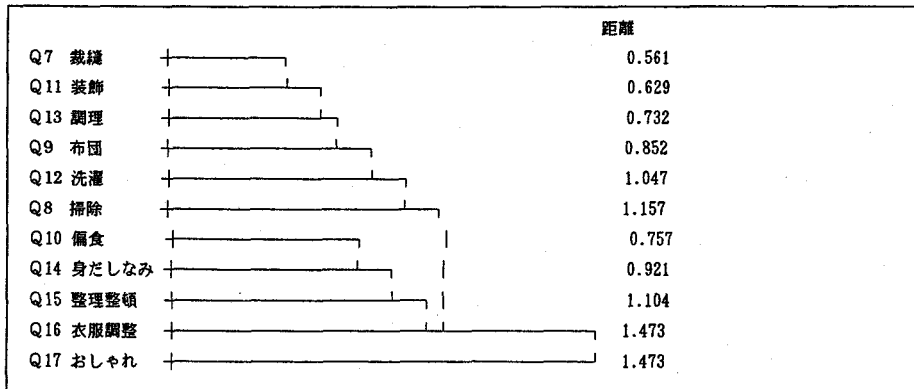


図2 身辺処理のデンドログラム

表 4 社会生活

	Q18安全歩行	Q19交通機関	Q20食堂	Q21買物	Q22公共利用	Q23電話
Q18安全歩行	1					
Q19交通機関	-0.208	1				
Q20食堂	-0.135	0.571**	1			
Q21買物	-0.152	0.696**	0.635**	1		
Q22公共施設	-0.463**	0.666**	0.43**	0.614**	1	
Q23電話	-0.224	0.547**	0.387**	0.621**	0.654**	1

*p<.05 **p<.01

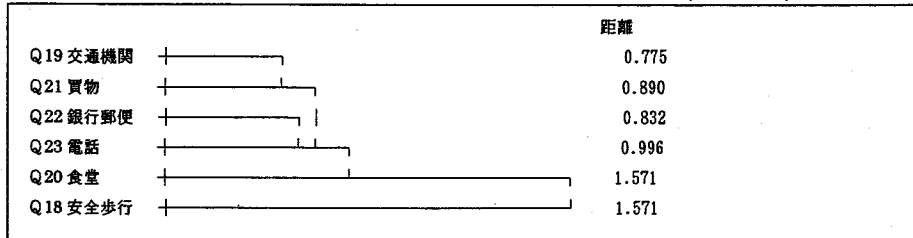


図 3 社会生活のデンドログラム

表 5 人間関係

	Q24応答	Q25返事挨拶	Q26世話	Q27異性交友	Q28礼儀	Q29集団ルール
Q24応答	1					
Q25返事挨拶	0.471**	1				
Q26世話	0.06	-0.04	1			
Q27異性交友	-0.638**	-0.33*	0.109	1		
Q28礼儀	-0.276*	-0.04	0.14	0.328*	1	
Q29集団ルール	-0.077	0.061	0.394**	0.136	0.595**	1

*p<.05 **p<.01

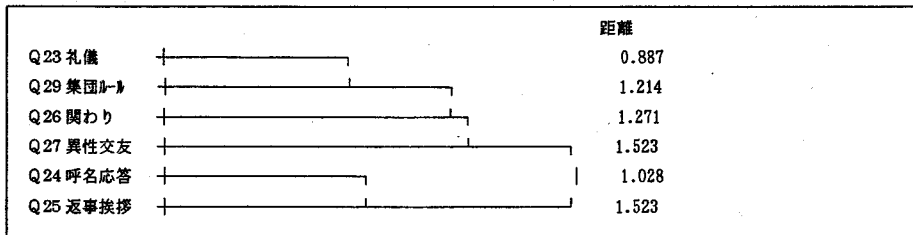


図 4 人間関係のデンドログラム

表6 国語

	Q30物と言葉	Q31模写	Q32名前	Q33平仮名	Q34漢字文章	Q35英語	Q36作文日記	Q37新聞	Q38辞書
Q30物と言葉	1								
Q31模写	0.747**	1							
Q32名前	0.756**	0.769**	1						
Q33平仮名	0.358**	0.382**	0.406**	1					
Q34漢字文章	-0.54**	-0.55**	-0.49**	-0.02	1				
Q35英語	-0.61**	-0.63**	-0.57**	-0.27*	0.844**	1			
Q36作文日記	-0.71**	-0.68**	-0.62**	-0.27*	0.87**	0.835**	1		
Q37新聞	-0.72**	-0.66**	-0.57**	-0.38**	0.794**	0.891**	0.861**	1	
Q38辞書	-0.72**	-0.66**	-0.61**	-0.33*	0.787**	0.849**	0.897**	0.899**	1

*p<.05 **p<.01

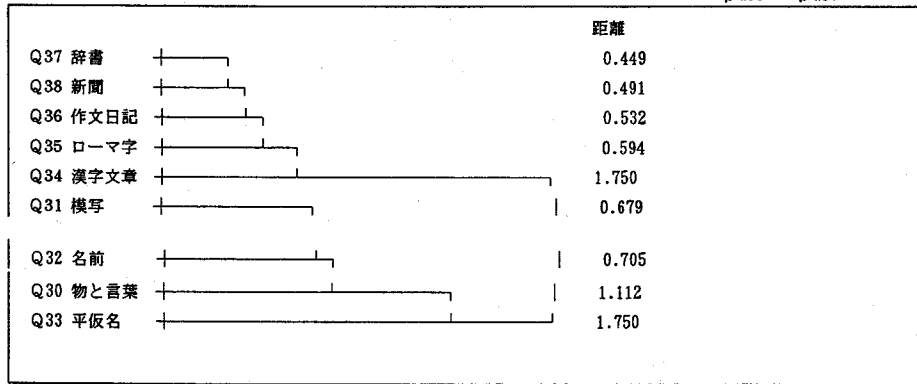


図5 国語のデンドログラム

表7 言語

	Q39発音	Q40身振り	Q41話の理解	Q42応答	Q43報告発表
Q39発音	1				
Q40身振り	0.129	1			
Q41話の理解	0.314*	0.137	1		
Q42応答	0.169	-0.28*	0.605**	1	
Q43報告発表	0.063	-0.5**	0.436**	0.759**	1

*p<.05 **p<.01

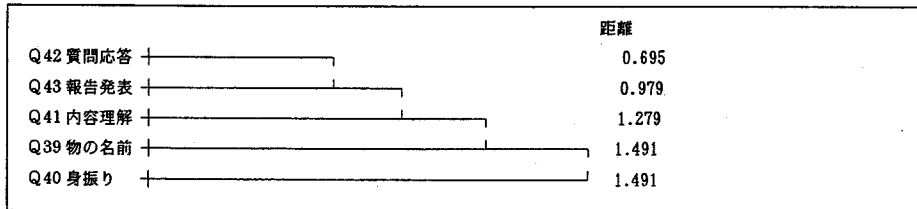


図6 言語のデンドログラム

表 8 数量

	Q44数唱数字	Q45大小弁別	Q46対応	Q47順序数	Q48加減算	Q49乗除計算	Q50長さ	Q51時計
Q44数唱数字	1							
Q45大小弁別	0.509**	1						
Q46対応	0.576**	0.902**	1					
Q47順序数	0.727**	0.275*	0.414**	1				
Q48加減算	-0.33*	-0.63**	-0.61**	0.014	1			
Q49乗除計算	-0.51**	-0.8**	-0.79**	-0.32*	0.78**	1		
Q50長さ	-0.39**	-0.7**	-0.67**	-0.21	0.898**	0.852**	1	
Q51時計	0.154	-0.27*	-0.27*	0.292*	0.659**	0.409**	0.562**	1

*p<.05 **p<.01

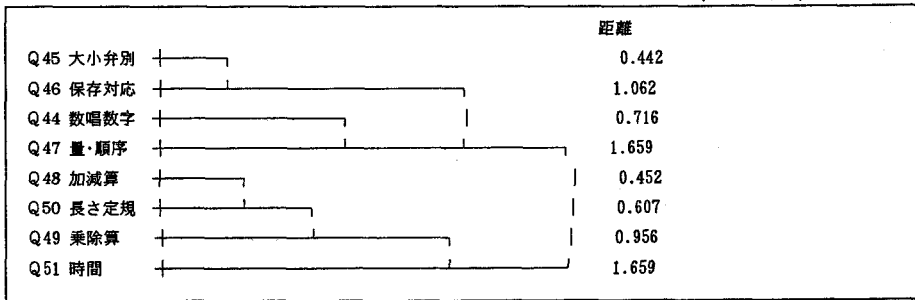


図 7 数量のデンドログラム

表 9 認知

	Q52模倣	Q53形色弁別	Q54持物区別	Q55見通し
Q52模倣	1			
Q53形色弁別	0.768**	1		
Q54持物区別	0.632**	0.707**	1	
Q55見通し	0.358**	0.271*	0.237*	1

*p<.05 **p<.01

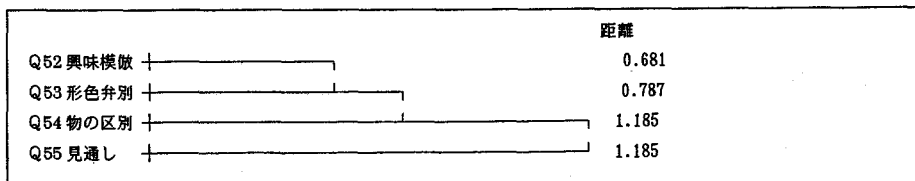


図 8 認知のデンドログラム

表 10 作業

	Q56集中	Q57工程	Q58丁寧正確	Q59手指操作	Q60道具	Q61機械操作
Q56集中	1					
Q57工程	0.244	1				
Q58丁寧正確	0.173	0.625**	1			
Q59手指操作	0.546**	0.227	0.095	1		
Q60道具	0.289	0.32*	0.207	0.672**	1	
Q61機械操作	-0.08	0.139	0.435**	-0.41**	-0.152	1

*p<.05 **p<.01

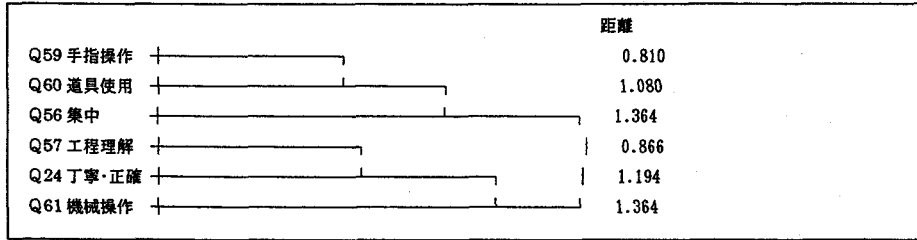


図 9 作業のデンドログラム

表 11 創作

	Q62歌	Q63楽器	Q64工作	Q65絵画	Q66粘土
Q62歌	1				
Q63楽器	0.277	1			
Q64工作	0.228	0.542**	1		
Q65絵画	0.039	0.332**	0.363**	1	
Q66粘土	0.226	0.464**	0.419**	0.422**	1

*p<.05 **p<.01

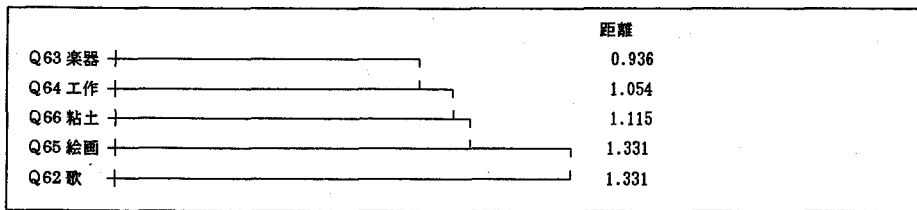


図 10 創作のデンドログラム

表 12 運動

	Q67調整力	Q68敏捷性	Q69持久力	Q70筋力	Q71ゲーム	Q72水泳
Q67調整力	1					
Q68敏捷性	0.637**	1				
Q69持久力	0.314*	0.499**	1			
Q70筋力	0.230	0.134	0.450**	1		
Q71ゲーム	0.374**	0.267*	0.204	0.082	1	
Q72水泳	-0.37**	-0.07	0.086	0.13	0.174	1

*p<.05 **p<.01

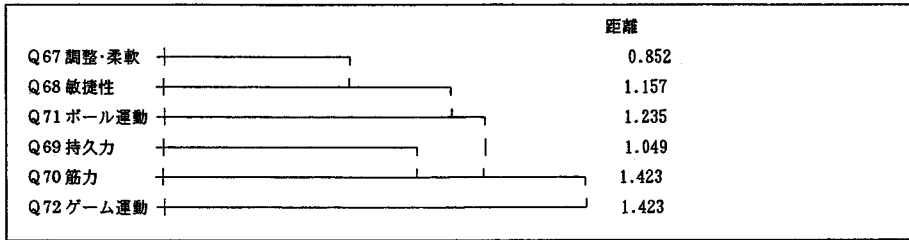


図 11 運動のデンドログラム

表 13 健康

	Q73手洗い	Q74生理手当て	Q75運動習慣	Q76健康管理	Q77性理解
Q73手洗い	1				
Q74生理手当て	0.226	1			
Q75運動習慣	0.099	0.0203	1		
Q76健康管理	-0.07	-0.016	0.217	1	
Q77性理解	-0.33**	-0.032	0.256*	0.714**	1

*p<.05 **p<.01

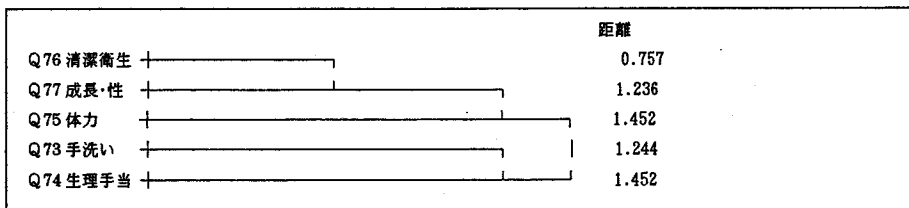


図 12 健康のデンドログラム

表 14 余暇

	Q78テレビ	Q79漫画	Q80一人遊び	Q81郊外遊び	Q82ルール遊び	Q83ダンス	Q84生き物	Q85手芸	Q86喫茶店	Q87娯楽施設
Q78テレビ	1									
Q79漫画	0.551**	1								
Q80一人遊び	0.325**	0.745**	1							
Q81郊外遊び	0.654**	0.366**	0.255*	1						
Q82ルール遊び	0.130	0.235*	0.172	0.068	1					
Q83ダンス	0.465**	0.240*	0.113	0.265*	0.228*	1				
Q84生き物	0.468**	0.382**	0.354**	0.155	0.013	0.301*	1			
Q85手芸	0.033	0.096	0.103	-0.08	0.05	0.419**	0.231	1		
Q86喫茶店	-0.020	0.192	0.189	-0.32**	0.422**	0.387**	0.332**	0.426**	1	
Q87娯楽施設	0.065	0.153	0.089	-0.07	0.176	0.319**	0.204	0.244	0.563**	1

*p<.05 **p<.01

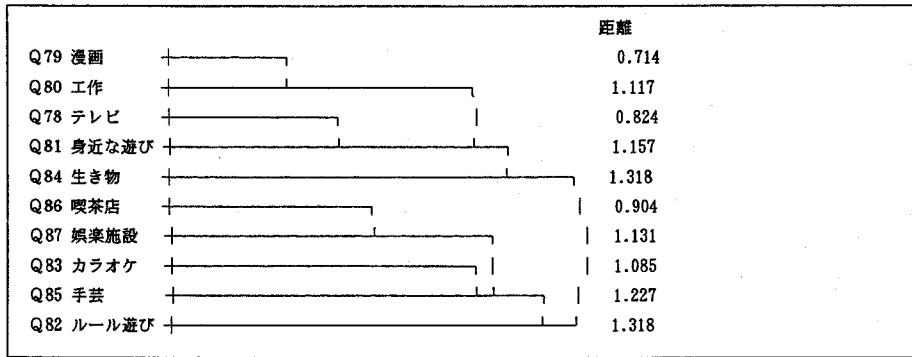


図 13 余暇のデンドログラム

表 15 行動

	Q88固執	Q89柔軟思考	Q90精神安定	Q91肢体機能	Q92我慢
Q88固執	1				
Q89柔軟思考	0.583**	1			
Q90精神安定	0.497**	0.576**	1		
Q91肢体機能	0.016	0.064	0.083	1	
Q92我慢	0.676**	0.529**	0.645**	0.131	1

*p<.05 **p<.01

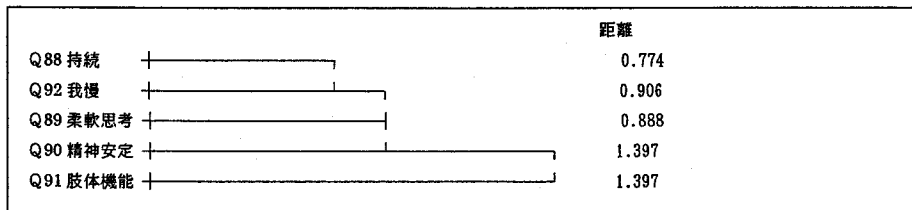


図 14 行動のデンドログラム

表 16 心

	Q93自信	Q94達成感	Q95忍耐力	Q96主体性	Q97責任感	Q98羞恥心	Q99思いやり	Q100善悪判断
Q93自信	1							
Q94達成感	0.681**	1						
Q95忍耐力	0.548**	0.615**	1					
Q96主体性	0.42**	0.479**	0.441**	1				
Q97責任感	0.532**	0.489**	0.548**	0.455**	1			
Q98羞恥心	0.265*	0.417**	0.233	0.316*	0.241	1		
Q99思いやり	0.412**	0.408**	0.487**	0.372**	0.464**	0.597**	1	
Q100善悪判断	0.347**	0.345**	0.609**	0.487**	0.497**	0.4**	0.711**	1

*p<.05 **p<.01

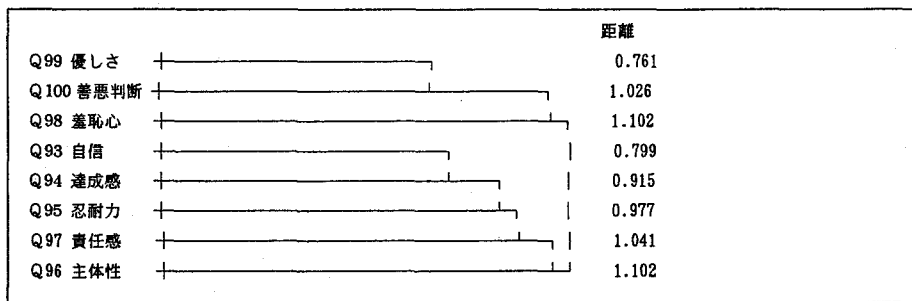


図 15 心のデンドログラム

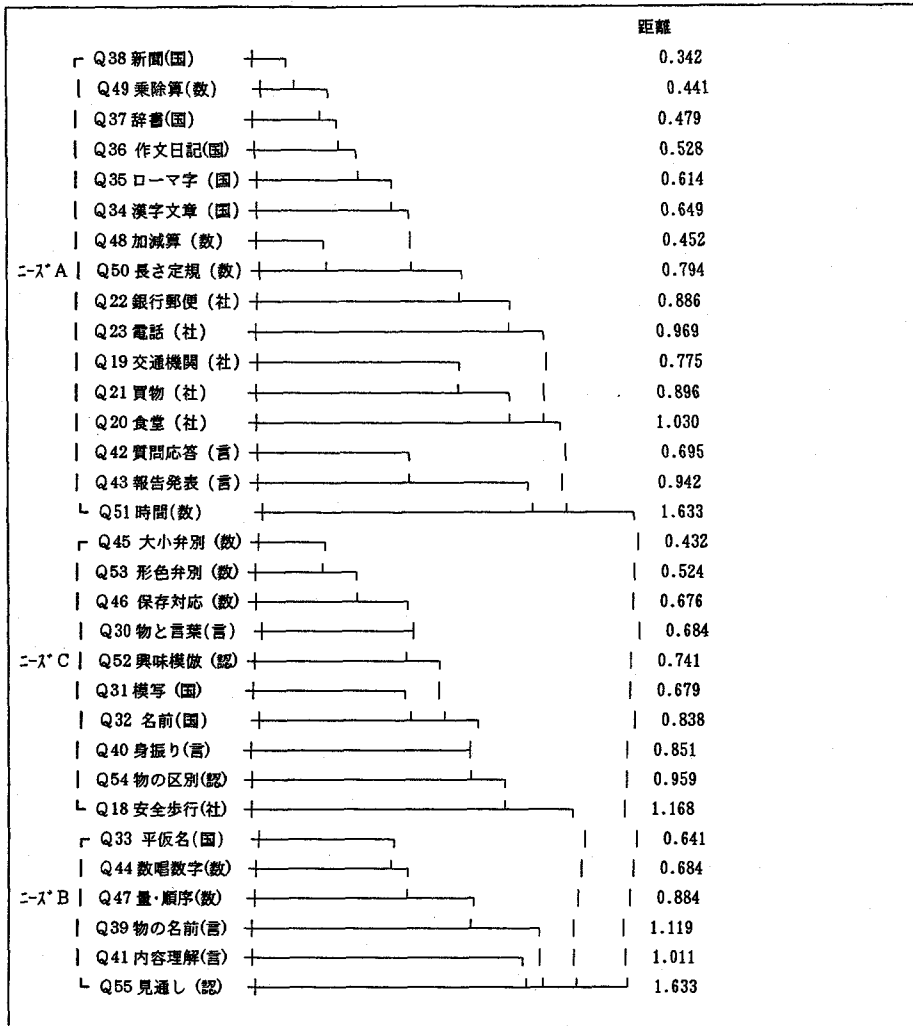


図 16 5領域のデンドログラム

表 17 ニーズ領域とニーズ項目数

A 身辺自立	13	B 家庭生活	6	C 社会生活	7	D 言語	14	E 数量	9
F 体力・運動	7	G 作業	7	H 遊び・余暇	14	I 人間関係	6	J 情意・行動	12

【後記】

本調査研究に携わった岩手大学教育学部附属養護学校旧（現）職員。

菅原正和，才善俊成，高橋榮幸，穂積恵祥，及川求，嶋野重行，玉山保子，中村英治，佐藤東吾，相馬千枝子，佐藤直美，稲邊宣彦，三田祐一，清水利幸，工藤まり子，及川江子，柿崎明弘，吉田孝次，佐々木聖，新妻史津子，杉田美紀子，小山恵子，紺野道子，米沢直美，佐々木恵子，川原木雅子，及川裕姫子，佐々木秀市，黒田順子，小山浩司，村上綾，澤田裕子，寺崎裕子，関口優，玉山恵理子，佐々木せい子，里館桂子，垣本隆史，以上

本来ならば，本調査研究に携わった全ての氏名が著者名に列挙されてしかるべきであるが論文としての形式上，当時の研究に特に重要な役割を果たした研究部長と校長を表記している。また本調査研究は，教員のみならず保護者からみた「教育的ニーズ」の分析研究に特色があり，ご協力いただきました保護者の皆様と子ども達に深く感謝致します。尚，その後本研究の或る部分は現箱石匡行校長のもとで文部省研究開発指定『一人ひとりの障害に応じた教育の在り方』（平成12～14年度：東京学芸大学，群馬大学，宇都宮大学との研究提携）に引き継がれ一段と充実した内容が構築されつつある。

引用文献

- 1) Borg, M. G. and Bartolo, P. A. (2000) Autism: The Challenge of Inclusion. The Eden Foundation, Malta.
- 2) Chadsey-Rusch, J. and Heal, L. W. (1995) Building consensus from transition experts on social integration outcomes and interventions. *Exceptional Children*, 62, 165-187.
- 3) Green, S. K. and Shinn, M. K. (1994) Parent attitudes about special education and reintegration: What is the role of student outcomes? *Exceptional Children*, 61, 269-281.
- 4) Hegarty, S. (1993) Meeting Special Needs in Ordinary Schools. Cassell, London.
- 5) 岩手大学教育学部附属養護学校（代表 菅原正和）（1996）一人一人の教育的ニーズをふまえた指導計画の作成，岩手大学教育学部附属養護学校研究紀要（IFY14）。
- 6) Kennedy, C. H., Shukla, S., and Fryxell, D. (1997) Comparing the effects of educational placement on the social relationships of intermediate school students with severe disabilities. *Exceptional Children*, 64, 31-47.
- 7) Madge, S., Affleck, J., and Lowenbraun, S. (1990) Social effects of integrated classrooms and resource room/regular class placements on elementary students with learning disabilities. *Journal of Learning Disabilities*, 23, 439-445.
- 8) Meier, C., Pijl, S. J., and Hegarty, S. (1994) New Perspectives in Special Education. Routledge, London.